

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月5日
【四半期会計期間】	第72期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	矢作建設工業株式会社
【英訳名】	YAHAGI CONSTRUCTION CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 藤本 和久
【本店の所在の場所】	名古屋市東区葵三丁目19番7号
【電話番号】	(052)935-2351(大代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 川口 亮
【最寄りの連絡場所】	名古屋市東区葵三丁目19番7号
【電話番号】	(052)935-2351(大代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 川口 亮
【縦覧に供する場所】	矢作建設工業株式会社 東京支店 (東京都中央区湊二丁目2番5号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第2四半期連結 累計期間	第72期 第2四半期連結 累計期間	第71期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(百万円)	30,793	28,656	62,400
経常利益(百万円)	2,798	1,082	2,635
四半期(当期)純利益(百万円)	1,629	578	1,295
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,558	494	1,389
純資産額(百万円)	28,777	28,495	28,304
総資産額(百万円)	87,210	86,399	90,397
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	37.54	13.32	29.84
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	33.0	33.0	31.3
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	2,100	5,002	6,475
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	116	156	19
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,898	4,116	1,950
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	15,753	11,892	11,161

回次	第71期 第2四半期連結 会計期間	第72期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	50.11	25.95

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、復興需要等を背景として緩やかな持ち直しの傾向が見られたものの、長引く欧州債務問題を背景とする世界景気の減速や、円高などの影響より、先行きの不透明感が強まりました。

建設業界におきましても、住宅投資に持ち直しの動きは見られたものの、民間設備投資は全体として持ち直しの動きに足踏みがみられるなど、依然厳しい市場環境が続きました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が28,656百万円（前年同四半期比6.9%減）、営業利益が1,323百万円（前年同四半期比56.4%減）、経常利益が1,082百万円（前年同四半期比61.3%減）、四半期純利益が578百万円（前年同四半期比64.5%減）となりました。

売上高の区分につきましては、完成工事高が24,753百万円（前年同四半期比7.3%減）、その内訳は一般建築工事が8,550百万円（前年同四半期比2.2%減）、耐震補強工事が10,137百万円（前年同四半期比20.7%減）、土木工事が6,065百万円（前年同四半期比17.2%増）となりました。また、不動産の売買・賃貸事業、仮設資機材賃貸事業、ゴルフ場経営事業等を内訳とする兼業事業売上高が3,902百万円（前年同四半期比4.4%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

- （建築セグメント） 耐震補強工事を含む建築工事全般及び仮設資機材賃貸事業等から構成され、セグメント売上高は22,352百万円（前年同四半期比6.6%減）となり、セグメント利益は2,220百万円（前年同四半期比47.2%減）となりました。
- （土木セグメント） 土木・鉄道工事全般及びゴルフ場の経営・コース維持管理に関する事業から構成され、セグメント売上高は6,202百万円（前年同四半期比15.3%増）となり、セグメント利益は374百万円（前年同四半期比55.1%増）となりました。
- （不動産セグメント） マンション分譲事業を中心とした不動産の売買、賃貸等に関する事業から構成され、セグメント売上高は3,862百万円（前年同四半期比6.4%減）となり、セグメント利益は246百万円（前年同四半期比36.8%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、11,892百万円となっております。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は5,002百万円（前年同四半期比2,901百万円増）となりました。これは主に売上債権の回収が進んだことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は156百万円（前年同四半期比40百万円増）となりました。これは主に固定資産の取得に伴う支出によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は4,116百万円（前年同四半期比2,217百万円増）となりました。これは主に借入金に係る返済額が調達額を上回ったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、145百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月5日)	上場金融商品取引所名又は登録認 可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	44,607,457	44,607,457	東京証券取引所(市場第一部) 名古屋証券取引所(市場第一部)	単元株式数 100株
計	44,607,457	44,607,457		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	44,607,457	-	6,808	-	4,244

(6)【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
名古屋鉄道株式会社	名古屋市中村区名駅1丁目2番4号	8,282	18.57
矢作建設取引先持株会	名古屋市東区葵3丁目19番7号	2,124	4.76
株式会社 リそな銀行	大阪市中央区備後町2丁目2番1号	2,047	4.59
株式会社 三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	2,047	4.59
有限会社 山田商事	名古屋市千種区東明町4丁目11番	2,005	4.49
矢作建設工業社員持株会	名古屋市東区葵3丁目19番7号	1,229	2.76
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	1,042	2.34
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	802	1.80
株式会社 横浜銀行	横浜市西区みなとみらい3丁目1番1号	762	1.71
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	643	1.44
計	-	20,986	47.05

(注) 1. 上記のほか、自己株式が1,203千株あります。

2. 上記日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、それぞれ414千株、423千株であります。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,203,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 43,381,800	433,818	-
単元未満株式	普通株式 21,957	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	44,607,457	-	-
総株主の議決権	-	433,818	-

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
矢作建設工業株式会社	名古屋市東区葵 3丁目19番7号	1,203,700	-	1,203,700	2.70
計	-	1,203,700	-	1,203,700	2.70

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	11,747	12,437
受取手形・完成工事未収入金等	3 18,784	3 13,834
未成工事支出金	3,980	6,184
販売用不動産	1 20,805	1 20,523
商品及び製品	17	9
材料貯蔵品	284	157
繰延税金資産	358	436
その他	1,830	816
貸倒引当金	43	36
流動資産合計	57,764	54,363
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	20,082	20,129
機械、運搬具及び工具器具備品	2,490	2,526
土地	2 15,717	2 15,722
リース資産	37	37
建設仮勘定	-	46
減価償却累計額	11,347	11,631
有形固定資産合計	26,980	26,831
無形固定資産	331	316
投資その他の資産		
投資有価証券	2,248	2,106
繰延税金資産	1,123	1,026
その他	2,083	1,843
貸倒引当金	205	145
投資その他の資産合計	5,250	4,830
固定資産合計	32,563	31,979
繰延資産		
社債発行費	69	56
繰延資産合計	69	56
資産合計	90,397	86,399

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	3 13,214	3 11,700
短期借入金	19,372	16,721
1年内償還予定の社債	1,140	1,140
未払法人税等	224	195
未成工事受入金	1,317	2,731
完成工事補償引当金	179	172
工事損失引当金	17	-
役員賞与引当金	45	25
その他	1,848	2,016
流動負債合計	37,359	34,703
固定負債		
社債	4,280	4,210
長期借入金	12,771	11,684
退職給付引当金	2,783	2,769
役員退職慰労引当金	690	416
資産除去債務	77	78
再評価に係る繰延税金負債	300	300
その他	3,828	3,741
固定負債合計	24,732	23,200
負債合計	62,092	57,904
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,808	6,808
資本剰余金	7,244	7,244
利益剰余金	21,157	21,432
自己株式	575	575
株主資本合計	34,634	34,909
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	293	210
土地再評価差額金	6,629	6,629
その他の包括利益累計額合計	6,335	6,419
少数株主持分	5	5
純資産合計	28,304	28,495
負債純資産合計	90,397	86,399

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高		
完成工事高	26,709	24,753
兼業事業売上高	4,084	3,902
売上高合計	30,793	28,656
売上原価		
完成工事原価	20,387	20,162
兼業事業売上原価	3,137	2,872
売上原価合計	23,524	23,035
売上総利益		
完成工事総利益	6,321	4,590
兼業事業総利益	946	1,030
売上総利益合計	7,268	5,621
販売費及び一般管理費	1 4,233	1 4,297
営業利益	3,035	1,323
営業外収益		
受取利息	4	1
受取配当金	22	27
その他	30	52
営業外収益合計	57	82
営業外費用		
支払利息	261	233
その他	32	89
営業外費用合計	294	322
経常利益	2,798	1,082
特別利益		
固定資産売却益	1	1
受取保険金	-	100
特別利益合計	1	101
特別損失		
役員退職慰労金	-	196
その他	12	56
特別損失合計	12	253
税金等調整前四半期純利益	2,787	930
法人税、住民税及び事業税	1,235	291
法人税等調整額	76	60
法人税等合計	1,158	352
少数株主損益調整前四半期純利益	1,628	578
少数株主損失()	0	0
四半期純利益	1,629	578

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,628	578
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	70	83
その他の包括利益合計	70	83
四半期包括利益	1,558	494
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,558	494
少数株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,787	930
減価償却費	400	416
貸倒引当金の増減額(は減少)	6	5
受取利息及び受取配当金	26	29
支払利息	261	233
売上債権の増減額(は増加)	1,693	4,956
たな卸資産の増減額(は増加)	2,403	1,805
仕入債務の増減額(は減少)	3,760	1,514
未成工事受入金の増減額(は減少)	459	1,502
その他	147	801
小計	3,393	5,485
利息及び配当金の受取額	26	28
利息の支払額	261	228
法人税等の支払額	1,057	283
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,100	5,002
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	183	301
投資有価証券の売却による収入	30	0
その他	36	145
投資活動によるキャッシュ・フロー	116	156
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	400	350
短期借入金の返済による支出	971	5,600
長期借入れによる収入	900	2,500
長期借入金の返済による支出	1,849	988
自己株式の純増減額(は増加)	0	0
配当金の支払額	303	303
その他	73	74
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,898	4,116
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	85	730
現金及び現金同等物の期首残高	15,667	11,161
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,753	11,892

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 販売用不動産に含まれている開発事業等支出金

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
	7,922百万円	8,326百万円

2 土地に含まれているコース勘定

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
	1,443百万円	1,448百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	39百万円	5百万円
支払手形	1,862	1,245

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
従業員給料手当	1,678百万円	1,598百万円
退職給付費用	74	181
役員退職慰労引当金繰入額	63	68
役員賞与引当金繰入額	35	25
販売費	268	358

売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

当社グループの売上高は、通常の営業の形態として第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に売上計上する割合が大きく、業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金預金勘定	16,568百万円	12,437百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	815	545
現金及び現金同等物	15,753	11,892

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月9日 取締役会	普通株式	303	7.0	平成23年3月31日	平成23年6月8日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月7日 取締役会	普通株式	303	7.0	平成23年9月30日	平成23年11月25日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月9日 取締役会	普通株式	303	7.0	平成24年3月31日	平成24年6月8日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月2日 取締役会	普通株式	217	5.0	平成24年9月30日	平成24年11月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	建築 セグメント	土木 セグメント	不動産 セグメント	計	調整額 (注)1	四半期連結損益計算書 計上額(注)2
売上高						
外部顧客への売上高	21,499	5,369	3,924	30,793	-	30,793
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,423	7	201	2,632	2,632	-
計	23,922	5,377	4,126	33,425	2,632	30,793
セグメント利益	4,206	241	180	4,628	1,592	3,035

(注)1.セグメント利益の調整額 1,592百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,384百万円及びセグメント間取引消去 208百万円を含んでおります。

全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	建築 セグメント	土木 セグメント	不動産 セグメント	計	調整額 (注)1	四半期連結損益計算書 計上額(注)2
売上高						
外部顧客への売上高	18,831	6,132	3,691	28,656	-	28,656
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,521	69	170	3,761	3,761	-
計	22,352	6,202	3,862	32,417	3,761	28,656
セグメント利益	2,220	374	246	2,841	1,518	1,323

(注)1.セグメント利益の調整額 1,518百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,419百万円及びセグメント間取引消去 99百万円を含んでおります。

全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	37円54銭	13円32銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,629	578
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,629	578
普通株式の期中平均株式数(千株)	43,404	43,404

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年11月2日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....217百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....5円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成24年11月27日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月1日

矢作建設工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中浜 明光 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 城 卓男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている矢作建設工業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、矢作建設工業株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。